





Newcomer 2007
Recommend by Creator
 極私的オススメ・ニューカマー

編集部で情報をキャッチしていないニューカマーがいるはず！「装苑」でいつもお世話になっているクリエイターがそれぞれに注目しているニューカマーを紹介。

「ミナ ペルホネ」
 2007年春夏コレクション、空間インスタレーション
 ディ자이너の残る、白い空間のギャラリーで発表されたコレクションを彩ったのがランダムに映る布の壁。「例えば、ギャラリーの中でも、ある風景の中モデルがさまようようなところを考えました。純白の床から、ミナの花が咲いているイメージで、それは意識せずとも、体全体で空間を感じ取っている感覚はその空気や光はもちろん、花の存在を確信したはずだ。皆川さんの第一印象を「柔らかく、で、深く、穏やかな、優しいかたでした」と言う田根。空白の場所を満たす穏やかで温かな雰囲気この皆川さんの印象そのものなのかもしれない。
 Photograph: Kim Koomi



AKU: 視覚 / 視角 / 死角 / 四角 / 刺客 / 資格 / 詩客 / 詞客 / 詩格 / 始覚 / □ / ■
 2004年6月8日初演、リョーとびあ劇場(新潟)、Noism04

の中に込められた意味から生まれた「自由と不自由」を感じさせる実験舞台。スウェーデンに暮らしていたことに住む数少ない日本人の中で特にクリエーティブなことをしていたことで親しくなったというダンサーの金銭的関係があったからこ受け入れた仕事だ。「建築と身体は切っても切り離せない関係にありませ。建築家が舞台は必ずしも美しい舞台となるかといえばそうとはならず、コラボレーションとして互いの仕事を尊重し、刺激し、息を合わせた関係が築けたうえで行えるもの。それによって振付家が一人ではできないこと、建築家ができないことが生まれることが大切だと思うのです」 photograph: Kishin Shinoyama (left)



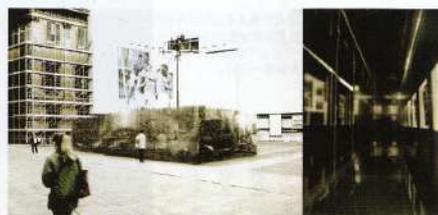
「新エストニア国立博物館」2009年完成予定、エストニア

108組の建築事務所を抑えて勝ち取った新エストニア国立博物館のプロジェクト。日本人として最年少で国際コンペティションを獲得する。旧ソ連、スウェーデン、デンマーク、ドイツなど長く他国の占領下にあったエストニアが独立を果たし、自国のアイデンティティを確立するために建築が予定されている。起伏のある広大な敷地にあった空軍飛行場をつなぐように延長して建てられる全長1.5kmの公共の場と、建坪28000㎡にもなる長崎博物館。企画展を行なうためのスペースは北側に全面ガラス張りというもので、「歴史的に複雑な背景を複雑なまま見せていくこと」をテーマに、その歴史の地層の上に現在という空間を表出させ、もう一枚の層が屋根となって軽やかに重なる。過去と未来をつなぐ「Memory Field—記憶の風景」という精神が宿るであろうピュアな空間となるはずだ。



「A LINE OF TEARS」
 2006年、津波メモリアル国際コンペティション出品作品

津波被害の鎮魂の記念碑をオスロに建立するために開催されたコンペティション出品作品。地震発信源とオスロを結ぶ一本の線上に2枚のガラス板を合わせた壁を作り、その間から水が低い落ちてくるというプラン。悲しみを生んだ波を象徴し、悲しみの涙でもありながら、その悲しみを洗済するための自浄作用を促す人間の力でもあることを示唆している。



「52 LUDLOW」
 2007年開催予定、エキシビションスペース

ファッションフォトグラファーとしての活動を突然に辞め、NYの室内から外の風景や街を行き交う人の写真を撮り続けるイタリア人写真家のジノ・パンニニ。彼の写真展を行なうためのスペースとして、外側と内側を分析する境界線として壁の中を歩くような体験となる。その展示室は暗闇の空白であり、すべての写真は壁の中に収められている。

建築家：田根 剛

Tsuyoshi Tane
 DORELL.GHOTMET.TANE / ARCHITECTS共同主宰



Tsuyoshi Tane
 田根 剛●1979年東京生れ。北海道、スウェーデン、デンマーク、イギリスで経験を積む。2005年、「DORELL.GHOTMET.TANE / ARCHITECTS」を設立し、「新エストニア国立博物館国際コンペティション」で最優秀賞に選出。'06年、パリへと拠点を移し、現在はエストニア、イタリア、フランス、日本にてプロジェクトが進行中。http://www.dgarchitects.com (中央が田根さん。右がドレルさん、左がゴットメさん)。

推薦者 **ミナ ペルホネン デザイナー 皆川 明**

「ペルホネンがパリ・コレクション期間中に作品を発表するようになって3シーズン目を迎えた2007年春夏コレクション。そのコレクション開催まで2か月を切ったところ、会場の空間を彩ったのが現在パリを拠点に活動する建築家の田根剛さんだ。ダンサーの金森積さんの美術を手がけたことを知り、前「装苑」編集長を介して知り合ったのをきっかけに交流が深まり、今回のプロジェクトへと結実した。「彼のすばらしさはプロジェクトの方向性、コンセプトを察知し、さらりとそぎ落とした強いインパクトを提案する力」と言う皆川さん。「今回のコレクションの空間に関して皆川さんからは、好きなようにお願いしますと言われただけ。情報開きあるクライアントとの仕事はお互いの期待をいい意味で裏切れるクリエイションです」実

は2005年の本誌NEWCOMER特集内で田根さんを紹介しているが、昨年よりイタリア人のダン・ドレルさん、レバノン人のリナ・ゴットメさんと「DORELL.GHOTMET.TANE / ARCHITECTS」を共同主宰するようになった。基本的にプロジェクトは全員で手がけている。「僕たち3人は生れも生活環境も、受けてきた教育も何もかもが違う。すべてが違う3人が共通に理解できるシンプルでパワフルなアイデアこそが強いコンセプトを持った建築家になっていくのだと思います。建築家は社会、文化、環境、生活に対して深くかかわっていくもの。建築家は「社会的芸術家(Social Artist)」として、文化に対してどれだけ開いた環境をつくれるかに挑戦していきたい」と言う若き建築家の今後の活躍に、皆川さんは期待しているだろう。